

「三重県ひきこもり支援推進計画」に基づく取組の進捗状況について

「三重県ひきこもり支援推進計画」では、「3年後の目標（めざす姿）」をふまえ、計画全体を包括する数値目標として「計画全体の目標」を設定するとともに、参考指標として「モニタリング指標」を設定し、計画的な確かな進行管理に努めることとしています。

本計画に基づく6つの取組方向ごとの主な取組について、令和5年度の進捗状況および今後の取組の方向性を以下のとおり整理しました。

【取組方向1】情報発信・普及啓発

（1）ひきこもりに関する正しい理解の促進

○「ひきこもり支援フォーラム」の開催（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

①ひきこもり支援フォーラム

「三重県ひきこもり支援推進計画」の趣旨等を周知するとともに、ひきこもりに関する正しい理解を促進するため、県民の皆さんを対象にした「ひきこもり支援フォーラム」を開催しました。（9月3日）

- ・シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢市）で開催
- ・伊勢市及び三重県済生会との共催
- ・参加者：500人
- ・講演：（テーマ）ひきこもりの真実 ～ひきこもるこころを理解する～
（講師）一般社団法人ひきこもりU×会議代表理事 林 恭子氏
- ・シンポジウム：（テーマ）ひきこもりから私たちの未来を考える
（パネリスト）いなべ笑かどサロン世話人 鈴木洋子氏
伊勢志摩不登校ひきこもりを考える会世話人 濱口拓氏
伊勢市健康福祉部福祉総合支援センターセンター長補佐 小川直紀氏
伊勢市ひきこもり地域支援センターつむぎセンター長 竹澤尚美氏
一般社団法人ひきこもりU×会議代表理事 林恭子氏

②ひきこもり支援フォーラム特別編

ひきこもり支援フォーラムで参加者から寄せられた講師に対する質問のうち、時間の都合上回答できなかった質問について、改めて講師からお答えいただく「ひきこもり支援フォーラム」特別編を開催しました。（11月7日）

- ・ Zoom によるオンライン開催（事前申込者を対象に、特別編録画の配信も実施）
- ・ 参加者：54 人、動画視聴回数：70 回
- ・ 講師：一般社団法人ひきこもり U X 会議代表理事 林 恭子氏

○医療従事者向け「ひきこもり支援セミナー」の開催（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

医療機関とひきこもり当事者やその家族との関わり方や、支援機関との連携について考えるための医療従事者向け ひきこもり支援セミナーを開催しました。（10月29日）

- ・ 参加者：33 人
- ・ 講演：（テーマ）「臨床現場からひきこもりを語る」
- ・ 講師：開花館クリニック医師、元三重県立子ども心身発達医療センター長
金井 剛 氏

○ひきこもり講演会の開催（ひきこもり地域支援センター）

（取組内容と進捗状況）

ひきこもりの当事者やその家族、ひきこもり支援機関等を対象に、ひきこもり講演会を開催します。（2月28日）

- ・ テーマ：「声を届ける 声を聴く」
- ・ 内容：不登校、ひきこもり経験者の方によるリレートーク

（今後の取組方向）

引き続き、ひきこもりに関する正しい理解を促進し、社会全体の機運醸成を図るため、引き続き県民を対象にしたフォーラム等の開催により、情報発信・普及啓発に取り組めます。

（2）支援機関からの情報発信（情報を届けるアウトリーチ）

○「みえひきこもり安心サポートライン」による情報発信（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

ひきこもり当事者やその家族をはじめ、県民の皆さんが必要な情報を得られるよう、SNSを活用した「みえひきこもり安心サポートライン」を定期的に配信し、相談支援機関の取組やイベント等に関する情報発信を行っています。

登録者数：333 名（12 月末時点）

（今後の取組方向）

引き続き、SNS等を活用したきめ細かな情報発信により、県民の皆さんが必要な情報を得られる環境づくりに取り組めます。

○ 就職氷河期世代向け SNS 等を活用したきめ細かな情報発信（雇用経済部雇用対策課）

（取組内容と進捗状況）

各種支援策の利用を促進することを目的として、SNS を活用し、就職氷河期世代支援策に関するきめ細かな情報発信を行い、支援対象者やその家族に対する情報のアウトリーチを図っています。

- ・ Twitter 投稿数 85 本、Facebook 投稿数 13 本
- ・ note 投稿数 6 本（うち支援機関等の利用促進を目的とした PR 漫画 2 本、エッセイ 1 本、特集記事 3 本）（12 月末時点）

（今後の取組方向）

引き続き、SNS 等を活用した情報発信や支援策の広報に取り組みます。

【取組方向 2】対象者の状況把握・早期対応**(1) 対象者への早期対応（潜在的な当事者へのアプローチも含む）****○ 「ひきこもり支援連携調整会議」の開催（子ども・福祉部地域福祉課）**

（取組内容と進捗状況）

市町における相談支援体制の充実に向けて、支援機関相互のノウハウの共有や困難事案に関する事例検討を行う会議として、市町や社会福祉協議会等職員が参加する「ひきこもり支援連携調整会議」を開催しました。

◇第 1 回

- ・ 8 月 25 日、参加者 29 名（県内 15 市町の行政・社会福祉協議会職員等）
- ・ 前半）講演：（テーマ）ひきこもり支援を関連施策から考える
講師：愛知教育大教育学部 准教授 川北 稔 氏
- ・ 後半）参加者間での意見交換会

（今後の取組方向）

第 2 回を「ひきこもり当事者の方の理解を深めるために」をテーマに、第 3 回を「効果的な広報の工夫」をテーマにそれぞれ 3 月に開催することにしています。

○ ひきこもり支援体制整備の加速化推進補助金の交付（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

市町における相談支援体制の充実・強化を加速するため、支援体制を新たに整備する市町に対する財政支援を行います。（国 1/2、県 1/4、市町 1/4）（有期 2 年）

- ・ 令和 5 年度補助対象 伊勢市、明和町の 2 市町に交付予定

（今後の取組方向）

市町における支援体制整備を加速させるために、引き続き、市町に対する財政支援を行います。

○ 義務教育卒業後における途切れのない支援（教育委員会事務局生徒指導課）

（取組内容と進捗状況）

地域における不登校支援の中核となる教育支援センターにスクールソーシャルワーカーが関わり、社会との関わりが希薄な状態となっており関係機関との繋がりもなく、今後も社会的自立が難しいと思われる児童生徒に対して、福祉や医療などの関係機関と連携し、実情に応じた支援が届けられるよう取り組んでいます。

各市町教育委員会や教育支援センターとスクールソーシャルワーカーが連携し、社会との関わりが希薄な状態となっている児童生徒の情報を共有し、今後の支援について検討しています。学校とも福祉とも関わりが持てない児童生徒に対して支援を行うにあた

り、保護者の協力が得られないケースがあり、支援を進めることができず停滞してしまうことがあります。

(今後の取組方向)

今後とも、各市町教育委員会や教育支援センターとスクールソーシャルワーカーが連携し、社会との関わりが希薄な状態で義務教育を卒業する生徒を関係機関と繋げる取組を進めます。

○ 地域包括支援センター等への働きかけ（医療保健部長寿介護課）

(取組内容と進捗状況)

地域包括支援センター等が高齢者への支援を行う中で、「8050 問題」にみられるように、ひきこもり当事者の生活が成り立たなくなっただけで表面化しない問題に対しても、困難な状態に陥る前の早い段階で把握することができ、適切な支援窓口につなげられるよう、地域包括支援センター等への働きかけを進めています。

・ 地域包括支援センター職員向けの課題別研修開催

日時：令和 5 年 6 月 22 日 参加者：65 名

講演：(テーマ) ひきこもり相談支援～専門職が知っておきたい対策～

講師：ノートルダム清心女子大学准教授 中井俊雄氏

(今後の取組方向)

引き続き、地域包括支援センター職員等の対応力向上に向けて、研修の実施をはじめとする普及啓発に取り組めます。

(2) 適切なアセスメントの推進

○ ひきこもり相談支援マニュアルの周知、活用の促進

(三重県ひきこもり地域支援センター)

(取組内容と進捗状況)

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、令和 4 年度に改訂した相談支援者向け「ひきこもり相談支援マニュアル」を活用し、支援者向けのスキルアップ研修を 2 回開催しました。また、「アウトリーチマニュアル」を研修参加者へ配布するなど、支援者や関係機関が適切な支援を実施できるよう、研修会等の場で周知、活用を促しています。

(今後の取組方向)

引き続き、支援者や関係機関が適切な支援を実施できるよう、継続して周知、活用促進の取組を進めます。

(3) 教育相談の実施

○教育相談の実施（教育委員会研修企画・支援課）

（取組内容と進捗状況）

子どもたちの心の問題の解決に向け、幼児から高校生までの子ども、保護者、教職員を対象に、臨床心理相談専門員（臨床心理士）を中心に専門的な教育相談を実施しています。

・教育相談件数：6,499件（令和5年12月末現在）

（今後の取組方向）

今後とも、継続して専門的な教育相談を実施予定です。

【取組方向 3 家族支援】**(1) 家族に寄り添った相談支援****○ 家族への専門相談、家族教室、家族会の開催****(三重県ひきこもり地域支援センター)**

(取組内容と進捗状況)

① 家族への専門相談

ひきこもり専門電話相談の開設日を増やし、当事者、家族、関係者がより相談しやすい体制を整備するとともに、ひきこもりの相談において、適切なアセスメントを実施し、特に精神保健の観点からの支援を行っています。また、多職種連携チームによる支援も行っています。

- ・ 電話相談支援 専門相談：(R5.9月変更) 月～金曜 9時～16時、随時対応
- ・ 対面型相談 来所相談(予約制)、精神科医師による面接相談(予約制)
多職種連携チームによる支援
- ・ 専門相談件数(延べ)：405件(電話・来所・訪問)(12月末現在)

② ひきこもり家族教室

県内各地域において、ひきこもりに関する正しい知識や情報、対応方法等を学ぶ「ひきこもり家族教室」を開催しています。

- ・ 北勢 第1回「ひきこもりの理解と対応」：7月24日(月)(12名参加)
第2回「将来のライフプラン」：9月8日(金)(18名参加)
- 中勢 第1回「ひきこもりの理解と対応」：7月6日(木)(21名参加)
第2回「コミュニケーションの工夫」：8月1日(火)(15名参加)
- 南勢 第1回「ひきこもりの理解と対応」：8月25日(金)(5名参加)
第2回「コミュニケーションの工夫」：9月29日(金)(2名参加)
- 全体会「対話交流会」：10月30日(月)(30名参加)

③ 家族会

家族同士の交流を中心にした家族会(虹の会)を、毎月第3金曜日に開催しています。

(今後の取組方向)

家族教室については、引き続き複数地域での開催を予定するなど、家族に寄り添った相談支援を継続していきます。

【取組方向 4 当事者支援】**(1) 当事者に寄り添った相談支援****○ 当事者への専門相談（三重県ひきこもり地域支援センター）**

（取組内容と進捗状況）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、ひきこもり専門電話相談の開設日を増やし、当事者がより相談しやすい体制を整備するとともに、ひきこもりの相談において、適切なアセスメントを実施し、特に精神保健の観点からの支援を行っています。また、多職種連携チームによる支援も行っています。

※取組実績は、「家族への専門相談」と同様。

（今後の取組方向）

市町等を訪問し周知・啓発を行うとともに、継続して当事者に寄り添った相談支援を実施します。

○ 高校生対象の教育支援センターの設置・運営（教育委員会事務局生徒指導課）

（取組内容と進捗状況）

令和4年度に実施した「県立教育支援センター設置に向けた実証事業」を経て、令和5年4月に「県立教育支援センターこもれび」の運営を開始し、高校段階で社会との関わりが希薄な状態にある子どもたちに学習や進路相談、体験活動等の機会の提供を行い、自己肯定感を高めることで子どもたちが自らの進路を主体的に考えることができるように支援しています。

- ・体験活動：12月末現在で14回実施（7月はイベントウィークとして毎日調理などの体験ができる週を作り、多くの生徒が参加しました。）
- ・保護者を対象とした交流会：12月末現在で3回実施

（今後の取組方向）

繋がった子どもたちへの個々の状況に応じた支援を継続するとともに、利用している生徒の保護者を対象とした交流会を実施し、悩みや不安に思っていることを安心して話せる場を提供するとともに、SC等による個別相談の場を設けることで、必要な支援につなげます。

(2) アウトリーチ（訪問型）支援の充実

○ 多職種連携チームによる支援（三重県ひきこもり地域支援センター）

（取組内容と進捗状況）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、医療・保健・福祉等の多職種から構成される「三重県ひきこもり多職種連携チーム」を設置し、特に高い専門性が求められるひきこもり当事者等への支援を実施しています。

- ・多職種連携チームによる支援件数（実件数）：20件（12月末現在）
- ・ケース会議：月1回開催

（今後の取組方向）

引き続き、支援や介入の必要性の判断が困難であり、より高い専門性が求められるひきこもり当事者や家族への訪問支援の充実に向けて取り組めます。

○ 精神科病院におけるアウトリーチ支援（医療保健部健康推進課）

（取組内容と進捗状況）

3つの障害保健福祉圏域（鈴鹿・亀山、津、伊賀）において、精神科病院にアウトリーチチームを設置し、精神科医療を必要とするひきこもり当事者も含む在宅の精神障がい者を対象に、医療・保健・福祉サービスを包括的に提供するアウトリーチ支援を実施しています。

- ・アウトリーチ支援件数：30件（12月末現在の対象者数）

（今後の取組方向）

アウトリーチチームを設置する精神科病院が合同事例発表会等を開催し、さらなる支援の強化を図ります。また、他の障害保健福祉圏域への拡大を図ります。

○ 三重県生活相談支援センターにおけるアウトリーチ支援（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

三重県生活相談支援センターにアウトリーチ支援員を2名配置し、当事者やその家族を対象に、伴走型支援によるアウトリーチを主体とした支援を行っています。

- ・支援件数：191件（面談訪問178件、同行支援13件）（12月末現在）

（今後の取組方向）

今後とも、アウトリーチ支援員による丁寧な伴走型支援を行っていく予定です。

○ 教育支援センターを核とした不登校支援（教育委員会事務局生徒指導課）

（取組内容と進捗状況）

県内すべての教育支援センター（21 か所）にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校児童生徒の支援を進めています。

不登校支援アドバイザー6名がそれぞれ複数の教育支援センターを訪問し、不登校児童生徒・保護者への支援に対する助言を行っています。

不登校児童生徒の状況に応じて、不登校支援アドバイザーや配置しているスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが訪問型支援を実施しています。

（今後の取組方向）

今後とも、新たに不登校となった児童生徒への支援を早期に行うとともに、教育支援センターへの通室を希望しない児童生徒に対しても訪問型支援など適切な支援を行います。

【取組方向 5 社会参加・活躍支援】**(1) 社会との接点をもつ機会の提供****○ ひきこもり当事者の居場所づくり支援（子ども・福祉部地域福祉課）**

（取組内容と進捗状況）

① 電子居場所の開設

当事者が社会とつながるきっかけとなるよう、市町等と連携し、既存のオンライン会議アプリを利用した電子居場所を5団体で開設しています。

『電子居場所の開設（5団体）』（月1回程度開催）

- ・「オンライン瑠璃庵（るりあん）」【特定非営利活動法人虹志（こうし）】
- ・「つむぐばonline-network」（略称：つむnet）【特定非営利活動法人よすが】
- ・「Life-art-online」【KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 みえオレンジの会】
- ・「Perche de FACE」【一般社団法人 家庭教育研究センターFACE】
- ・「さんぼみち Eルーム」【社会福祉法人 鳥羽市社会福祉協議会】

延べ参加者数 341 名（12 月末時点）

② 「ひきこもり当事者の居場所づくり応援アドバイザー」の派遣

ひきこもり当事者の居場所の開設およびそれに携わる人材の育成を促進するため、居場所づくりに意欲・関心のある市町、民間団体等からの要望に応じて、ひきこもり当事者の居場所の運営に伴い生じる相談への対応を行う「ひきこもり当事者の居場所づくり応援アドバイザー」派遣制度を新設しました。

（今後の取組方向）

引き続き、市町等と連携し、ひきこもり当事者の居場所づくりを進めるとともに、住んでいる地域に関わらず参加できる広域的な居場所の提供に向けて取り組めます。

○ 子どもの居場所づくり支援（子ども・福祉部少子化対策課）

（取組内容と進捗状況）

子どもの居場所づくりが持続可能な取組となるよう、運営上抱えている課題の解決に向けて、子どもの居場所づくり応援アドバイザーの派遣や勉強会の開催等による人材育成、子どもの居場所ニーズ・シーズマッチング事業の実施、子ども食堂の開催や学習支援・体験活動を行うための運営補助金や子ども食堂における朝ごはん提供を行うための補助金の交付、飲食店等を対象に子どもの居場所の新規開拓を目的としたモデル事業の実施等、さまざまな手法で支援を行っています。

(今後の取組方向)

子どもの居場所支援の取組や実績、好事例等について、子どもの貧困対策推進会議や意見交換会で情報共有を行うとともに、市町における子どもの貧困対策の充実や子どもの居場所づくり運営者間のネットワーク強化を図ります。

○ 学校外での多様な学びの場の支援（教育委員会事務局生徒指導課）

(取組内容と進捗状況)

県教育委員会で把握している、不登校児童生徒を支援する民間施設（フリースクール等）が実施する体験活動を支援しています。

・ 支援件数：23 回（12 月末現在）

支援申請をしている利用施設が少ないことから、多くの民間施設に利用してもらえよう周知します。

(今後の取組方向)

今後とも、民間施設が実施する体験活動について支援していく予定です。

○ オンラインを活用した不登校児童生徒の居場所づくり支援

(教育委員会事務局生徒指導課)

(取組内容と進捗状況)

不登校の中高生等を対象に、生徒自らが他者や社会と繋がろうとするきっかけを得ることができるようになるとともに、自身の興味・関心の幅を広げたり、強みに気付いたりできるようにすることを目的として、他者と交流できるオンライン上の居場所を創出しています。

Zoom を活用して博物館や消防署などの施設見学、講師によるイラスト教室など中高生等が興味関心のあるテーマについて、大学生スタッフとチャットや音声で対話する取組を実施しています。また、メタバースを活用しテーマ別に話したり、他県の児童生徒との交流会などを実施しています。これらの活動を通して、自身の進路に関心を持つようになった生徒もいました。より多くの生徒が参加できるよう、内容を充実させる必要があります。

(今後の取組方向)

オンラインでの施設見学などを引き続き実施し、より参加しやすく外へ出るきっかけとなる内容を増やしていきます。

(2) 段階的・継続的に社会参加・活躍できる環境づくり

○ 就労準備支援事業の活用促進（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業について、三重県生活相談支援センターが県福祉事務所と連携し、事業所の開拓等を進めるとともに、市町に対して積極的な事業の活用等を働きかけています。

（今後の取組方向）

引き続き、受入先事業所の開拓や制度の活用を積極的に働きかけていく予定です。

○ 障害福祉サービス等の利用による支援の促進（子ども・福祉部障がい福祉課）

（取組内容と進捗状況）

市町職員や市町の委託等により運営する相談支援事業所等の職員に対し、各種研修の機会を通じて、ひきこもり当事者を含め、発達障がいや精神障がいのある人に対し、それぞれの事情に応じ、障害福祉サービス等の利用など、支援につながるよう助言等を行っています。

（今後の取組方向）

今後とも継続して関係職員等に対して働きかけていく予定です。

○ 農福連携による農業への就労促進（農林水産部担い手支援課）

（取組内容と進捗状況）

ひきこもり当事者を含む、生きづらさや働きづらさを感じている若者等の社会的自立を支援するため、農業の多様な作業内容を生かした就労体験に取り組むとともに、就労体験の受入が可能な農業者のリスト化に取り組んでいます。（令和5年度は紀北地域において実施）

また、これまでの農業就労体験から得たノウハウを取りまとめた「若者等を対象とした農業就労促進プログラム」を様々な機会を通じて情報発信し、若者等へのアプローチ方法等を水平展開しています。

（今後の取組方向）

今後とも、農業の多様な作業内容を生かした就労体験や、就労体験の受入が可能な農業者のリスト化等を通じて、生きづらさや働きづらさを感じている若者等の社会的自立の支援に取り組めます。

○ 就職氷河期世代を対象にした就労支援（雇用経済部雇用対策課）

（取組内容と進捗状況）

さまざまな関係機関で構成される「みえ就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」において、就職氷河期世代の活躍支援策の進捗管理等を統括し、継続的な取組を推進しています。（7月20日、1月22日会議開催）

おしごと広場みえには、就職氷河期世代専門相談窓口「マイチャレ三重」を設置し、ひきこもり経験者を含む就職氷河期世代の方を対象に、相談から就職まで切れ目ない支援を行っています。

「マイチャレ三重」では、各種相談やキャリアカウンセリング、就労体験等の受入先となる県内事業所の開拓等を行うとともに、雇用・福祉・医療等の支援機関と連携しながら、就職や社会参加に向けて切れ目ない支援を提供しています。

- ・ マイチャレ三重相談件数：558件（12月末現在）
- ・ 開拓事業所数：14事業所（12月末現在）
- ・ 就職者数：37人（12月末現在）
- ・ 合同企業説明会の開催：令和5年7月21、22日 参加者延べ37人
令和5年10月14日 参加者延べ11人
令和5年12月15、16日 参加者延べ34人

（今後の取組方向）

今後とも継続して、事業所向けセミナーや合同企業説明会を開催するとともに、引き続き相談窓口で支援等を行います。

○ 地域若者サポートステーション等と連携した就労支援（雇用経済部雇用対策課）

（取組内容と進捗状況）

① 「地域若者サポートステーション」の取組

ひきこもり経験者を含む若年無業者の職業的自立を図るため、各地域若者サポートステーション（4か所）と連携し、就労体験や各種セミナーの開催等に取り組んでいます。

ア）就労前スキルアップ訓練

就労など自立に課題を抱える若年無業者に対して、地域の企業等で就業するために必要な知識や技術を取得させるために、パソコン講座や就労に向けたスキルアップのための訓練等を行っています。

- ・ 参加者延人数：237名（12月末現在）

イ）就労体験等

NPO法人や事業所におけるジョブトレーニングを体験できる機会を提供する他、社会参加への一環として、イベント等への社会体験（ボランティア体験）を実施しています。

- ・ 参加者延人数：257名（12月末現在）

ウ) 常設型施設体験就労

運営団体自らが運営管理する施設を利用して、基本的な社会生活やスキルを身につける就労体験（喫茶、製菓及び農業）を実施しています。

- ・参加者延人数：236名（12月末現在）

エ) 就職氷河期世代向け就労支援事業

就職氷河期世代向けに、職業スキル向上を図るとともに、就労に向けて成功体験を重ねていくための就労体験や社会体験等を実施しています。

- ・参加者延人数：65名（12月末現在）

② 「おしごと広場みえ」の取組

「おしごと広場みえ」を拠点に、若年者向けの雇用情報の提供、職業相談、キャリアカウンセリング、セミナー、企業情報収集等、総合的な就職支援サービスを提供しています。

- ・若者と企業との交流イベントの開催
- ・県内外の大学訪問による県内の就職情報の発信及び情報収集
- ・企業向け人財確保セミナー 他

（今後の取組方向）

今後とも継続して、地域若者サポートステーション等と連携して、ひきこもり経験者を含む若年無業者等の就労支援を行います。

○ 夜間学級体験教室「まなみえ」における支援（教育委員会事務局小中学校教育課）

（取組内容と進捗状況）

不登校等のため小・中学校に十分通えなかった方に対し、夜間学級体験教室「まなみえ」において、中学校の国語、社会、数学、理科、英語、実技教科の授業を実施し、学習面に関する支援を行いました。

- ・期間：5月12日～12月20日 ・場所：津会場と四日市会場の2会場
- ・実施回数：各会場授業39回、校外学習2回
- ・参加者：16人中、9人が継続的に受講（9人のうち、5人が不登校経験者）

（今後の取組方向）

引き続き、さまざまな事情により義務教育段階の教育を十分に受けられないまま中学校を卒業した方の教育を受ける機会を保障するため、夜間学級体験教室「まなみえ」を実施します。

【取組方向 6 多様な担い手の育成・確保】

(1) 相談員・支援員の育成・確保

○ ひきこもり支援者の育成支援（三重県ひきこもり地域支援センター）

（取組内容と進捗状況）

三重県ひきこもり地域支援センターにおいて、教育・保健・福祉・医療・雇用等のさまざまな分野でひきこもり支援に関わる方を対象に、支援力の向上を図る「ひきこもり支援者スキルアップ研修」を実施しています。

（今後の取組方向）

ひきこもり支援に携わっている支援者を対象に、下記のとおり研修会を開催しました。

- ・ 第1回：10月6日（金） テーマ「ひきこもり相談支援の基本」
（講師）三重県こころの健康センター技術指導課職員
参加者：35名
- ・ 第2回：12月7日（木） テーマ「グループの基本について学ぼう！」
（講師）自治医科大学附属さいたま医療センター
メンタルヘルス科 教授 岡島美朗氏
参加者：31名

○ ひきこもり支援ネットワーク会議の開催（三重県ひきこもり地域支援センター）

（取組内容と進捗状況）

三重県内の支援機関同士の「顔の見える関係づくり」をより一層充実させるため、事例検討等を取り入れた地域別のひきこもり支援ネットワーク会議を実施します。また、三重県全体でのひきこもり支援ネットワーク会議も開催します。

（令和5年度の取組）

ひきこもり支援機関を対象に北勢地域・南勢地域の2か所及び三重県全体でのひきこもり支援ネットワーク会議を開催予定です。

- ・ 北勢地域ひきこもり支援ネットワーク会議：11月17日（金）26機関31名
- ・ 南勢地域ひきこもり支援ネットワーク会議：10月13日（金）26機関34名
- ・ （全体会）三重県ひきこもり支援ネットワーク会議：令和6年2月2日（金）開催

○ 「相談支援包括化推進員」の育成支援（子ども・福祉部地域福祉課）

（取組内容と進捗状況）

市町における包括的な支援体制の整備に向けて必要な人材である「相談支援包括化推進員」の育成支援のため、研修を実施しています。

県社会福祉協議会に委託し、市町、市町社会福祉協議会、地域包括支援センター職員等を対象に、「相談支援包括化推進員養成研修」を9月21日から開催しています。

- ・連続研修：3回（のべ参加者：93名）、テーマ別研修：3回（のべ参加者数52名）
- ・テーマ別研修（1回）を2月7日に開催しました。

（今後の取組方向）

引き続き、「相談支援包括化推進員養成研修」を実施する予定です。

（2）不登校児童生徒等を支援する人材の育成支援

○ 教育支援センター指導員の育成研修

（教育委員会事務局研修企画・支援課、生徒指導課）

（取組内容と進捗状況）

不登校児童生徒やその保護者への適切な支援を行うため、教育支援センターの指導員を対象に、事例検討等を中心とした実践的な資質向上を図る研修を実施するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを対象に、実践力向上のための研修を実施しています。

- ・教育支援センター指導員育成研修の実施（年6回の予定）

1回目 5月17日「教育支援センター担当者の礎」・・・活用度73%

2回目 6月30日「ロールプレイング」・・・活用度80%

3回目 7月21日「事例検討会①」・・・活用度75%

4回目 8月29日実施「心の発達課題から考える」・・・活用度50%

5回目 10月11日、11月10日実施「グループでの事例検討」・・・活用度77%

6回目 1月31日実施予定

- ・SC研修会：4月、7月、10月実施

- ・SSW研修会：月1回程度実施

（今後の取組方向）

引き続き、教育支援センター指導員育成研修及びSC、SSWの実践力向上研修に取り組みます。